

第4章 調査結果の総合検討

4-1 地化学異常と鉱化作用との関連について

Zuukhiin gol 地区では、流紋岩貫入部周辺の石英脈露頭で酸化銅を含む花崗閃緑岩が確認された。土壤地化学探査の結果、Cu 100ppm を超える高異常域は花崗岩類が分布する地域に N80E ~E-W の方向に広がる。従って、銅鉱化は地表の花崗閃緑岩よりも後生と判断された。緑色変質した安山岩に斑状の酸化銅が存在し、Cu1.48%を示した。

Khujiriin gol 地区中央部に卓越する中粒花崗岩分布域に黄銅鉱、孔雀石、藍銅鉱などの銅鉱物を伴う石英脈が存在する。東西方向に伸長する銅の鉱化帯 (Cu0.5%以上) が存在することを既存資料も示している。東西に延長する石英脈群 (走向 N80° E~E-W, 傾斜 80° N~90°) は銅鉱化(Cu 0.1%以上)の存在を示した。また土壤地化学探査も銅の鉱化が存在を示すことを示した。

他の地区では、有望な岩石分析品や土壤地化学異常を捕捉出来なかった。

4-2 物理探査異常と鉱化作用との関連について

Zuukhiin gol 地区の Cu 100ppm を超える土壤の高地化学異常域が分布する地域で実施した TDIP 法電気探査の結果、低比抵抗帯と高分極率帯の IP 異常域が捕らえられた。850 Ωm 以下の低比抵抗分布域が、また 30mV/V 以上の高分極率帯が地下に広く確認され、その規模は深部では 4.0km×2.0km 以上と大きく且つ広くまた深部まで連続する。ここでは地表に孔雀石などの銅鉱物が東西 4km, 南北 2km の範囲に広がっている。緑泥石-絹雲母-変質帯からなる変質が中心に、その外側に緑泥石-変質帯からなるプロピライト帯が確認された。

Khujiriin gol 地区中央部の銅鉱化 Cu 0.1%以上を示す石英脈群が発達し、また土壤地化学異常を捕捉した地域において TDIP 法電気探査を実施した結果、1200 Ωm 以上の低比抵抗分布域と 10mV/V 前後の弱い高分極率帯と補足した。そこには、銅鉱化作用を伴う石英脈群が発達する。

他の地区では有望な物理探査異常を捕捉出来なかった。

4-3 鉱床賦存のポテンシャルについて

本年度実施された地質調査及び物理探査の結果から銅鉱床が賦存する可能性が高い地域としては、以下のとおりである。

- 1) Zuukhiin gol 地区の高地化学異常域と低比抵抗帯及び高分極率帯の IP 異常示す地域にエルデネット鉱床と同様のポーフィリー型銅モリブデン鉱床
- 2) Khujiriin gol 地区の銅鉱化 Cu 0.1%以上を示す石英脈群が発達し、高比抵抗で弱い高分極率帯を示す地域に多金属石英脈鉱化帯